

## ⑥実用新案公報 (Y2) 昭54-23483

⑥Int. Cl.\*

A 45 D 40 / 26  
A 45 D 33 / 00  
A 45 D 34 / 04

識別記号 ⑥日本分類

125 C 13  
125 C 12  
125 C 13

序内整理番号

7001-3B  
7001-3B  
7001-3B

⑥⑥公告

昭和54年(1979)8月11日

(全3頁)

1

2

## ⑥化粧料容器

⑥実願 昭51-141941  
 ⑥出願 昭51(1976)10月21日  
 公開 昭53-61276

⑥昭53(1978)5月24日

⑥考案者 団村芳和  
 東京都板橋区新河岸2の7の11  
 薩工業株式会社内  
 ⑥出願人 薩工業株式会社  
 東京都板橋区新河岸2の7の11  
 ⑥代理人 弁理士 谷山守

## ⑥実用新案登録請求の範囲

- 有底筒状容器口部に螺合するキヤップと、該キヤップと一体に成り、上記口部に内挿嵌合したシゴキ部材を貫挿して容器内に挿入される塗布棒と、該塗布棒端部に螺設したネジに接着する補助部材の舌状部に接着して成る塗布部材から成る化粧料容器。
- キヤップ螺合部と塗布棒に螺設するネジを同ビッチ、同方向とし、キヤップ部材が一体同時成型出来る様に構成したことと特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の化粧料容器。
- 塗布棒端部に螺合して成る塗布部材を接着した補助部材を、該螺合部に於いてカシメ加工又は溶着加工に依る螺子戻り防止加工を施工して成ることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の化粧料容器。

## 考案の詳細な説明

本考案は、液状、ペースト状又は粉状のアイシヤドウ等の化粧料を収納する容器に関する。

従来、化粧料を収納するための容器は多数考案されているが、特に化粧料内にキヤップと一体化して成る塗布部材を浸漬し、該塗布部材に付着した化粧料を顔面等に当接して使用する塗布型の化粧品容器は、塗布部材に付着した過剰化粧料を容

器内に戻すための、シゴキ部材が容器口に設けられているが、該シゴキ部材と塗布部材の摩擦に依り、塗布部材が塗布棒端部から抜け落ちてしまう事故が多発し、実用上の欠点を有するものであつた。

本考案は上記欠点に鑑み、塗布部材が塗布棒から抜け落ちない為の化粧料容器の改良を目的とするもので、キヤップ部と一体に成る塗布棒先端にキヤップに螺設した螺合ネジと同ビッチ、同方向のネジを螺設、同時に成型して、該ネジに塗布部材を接着又は溶着して成る補助部材を螺合一体化し容易に塗布部材が抜け落ちることのない化粧料容器を提唱することを目的とするものである。

今、本考案化粧料容器の一実施例を図面について詳しく述べるに、第1図は化粧料容器の縦断面図である。

有底筒状の容器本体1は合成樹脂、ガラス、磁器、又は金属等に依つて構成され、該本体1の口部1a外周には螺合用雄ネジ2が螺設され、口部20 1a内にはゴム、合成ゴム等から成るシゴキ部材3がその嵌挿部3aを密接して内挿し、外端3bを容器本体口部1aに係止して成る。

4は上記本体口部1aに螺合するキヤップであり、該キヤップ4は上記シゴキ部材3の挿入孔5に密接して挿入される塗布棒6とキヤップ嵌合部7が合成樹脂にて一体に成型されるもので、キヤップ嵌合部7には金屬又は合成樹脂から成る装飾キヤップ8が外挿圧入されると共に、下端部内周には上記雄ネジ2に螺合する雌ネジ9を螺設して成る。

上記塗布棒6の先端凹部6aの内端には前記雌ネジ9と同ビッチ、同方向の雌ネジ10を螺設すると共に、該雌ネジ10に螺合する雄ネジ11を設けた補助部材12の舌状部12aに発泡ウレタン樹脂等の塗布部材13を外挿接着し、該塗布部材13の上端部13aを塗布棒6の先端凹部6aに押し込みながら補助部材12の雄ネジ11を雄

ネジ10に螺合固着して成る。然る後、その螺合部をカシメ加工若しくは接着、或は超音波エリマー等に依り、溶融接着して一体化して成る。尚、図中12bは補助部材舌状部12b表面に一体成型した凸状であり、又aは化粧料である。

上記構成に成る化粧料容器は、化粧品aを本体1内に充填後、キヤップ4と一体に成る塗布棒6をシゴキ部材3の挿入孔5より容器内に挿入し塗布棒6の先端に固着した塗布部材13に化粧料aを浸漬又は付着せしめると共にキヤップ4を引き塗布棒6を引き抜く途中に於いてシゴキ部材3の挿入孔5に依り塗布部材13に付着した加剤化粧料aを容器本体1内にシゴキ落す様に成るものである。

然して上記塗布棒6に設けた塗布部材13は補助部材12の舌状部12aに接着されると共に、該補助部材12が塗布棒6と螺合して成る為、引張力に対して塗布部材13が抜け落ちることがなく、更に螺合部を接着してネジ戻りが無い様構成されている為容易に補助部材12が塗布棒6端部から外れる事はない。

又、上記構成の塗布棒6及びキヤップ嵌合部7は同時成型されるものであるが、キヤップ嵌合部7に螺設する雌ネジ9と塗布棒6に螺設する雌ネジ10を同ピッチ、同方向にすることに依つて成形型を増設することなく一体化成型出来るもので

ある。

以上説明した様に本考案、化粧料容器は容器本体内に該口部に設けたシゴキ部材を介して挿入する塗布棒を、キヤップ嵌合部を一体的に成型すると共に、該塗布棒端部に塗布部材を補助部材を介して螺合した後、カシメ加工、接着加工等を施しネジ戻りを防止した為、キヤップの引き抜き動作に対し塗布部材が簡単に塗布棒から抜け落ちない様に成り、又、該塗布部材が舌状部を有する補助部材を介して塗布棒に固着される為、塗布に際して舌状部が適当に屈曲し、化粧料が塗り易い特徴を有する。

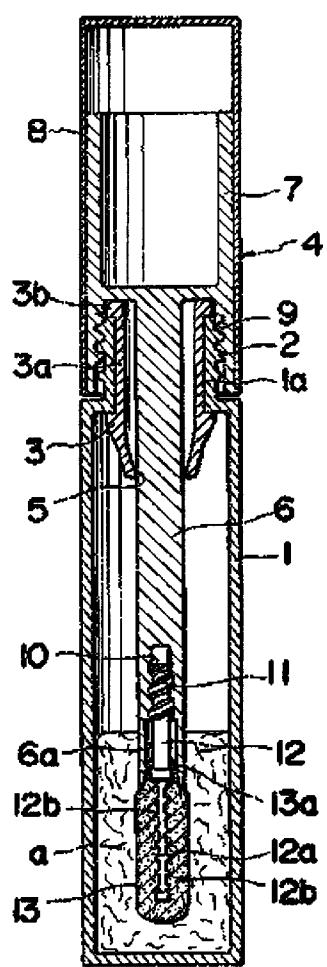
加えて、キヤップの螺合ネジと塗布棒の螺合ネジを同ピッチ同方向に構成した為、塗布棒とキヤップ嵌合部を一体的に且つ同時に成型出来る様に成る等本考案、化粧料容器の実用的効果は極めて大きい。

#### 図面の簡単な説明

図面は本考案、化粧料容器の一実施例を示すもので、第1図は化粧料容器の縦断面図、第2図は同要部分解斜視図である。

1～容器本体、2, 11～雄ネジ、3～シゴキ部材、4～キヤップ、5～挿入孔、6～塗布棒、7～キヤップ嵌合部、8～装飾キヤップ、9, 10～雌ネジ、12～補助部材、12a～舌状部、13～塗布部材、a～化粧料。

第1回



第2回

